

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 158 2011年6月 発行

全国の仲間から温かい支援の声

初の緊急代表者会議で、被災者支援を決定

本部OB会は、四月二十日、OB会結成以来初の「緊急地本OB会代表者会議」を本部大会議室で開催しました。会場には、東北新幹線が未だ全面開通していない中、東日本大震災で被災した東北各地本のOB会を始め、全12地本の代表者が元気な姿で集まりました。

この会議は、3月11日に発生した「東日本大震災」で甚大な被害を受けたOB会員を全国の仲間が支援するための意思統一の場として、急遽開催されました。

会議の冒頭、この度の大地震で亡くなられた方々に黙祷を捧げた後、被害が大きかった盛岡・仙台・水戸・千葉の各地本OB会の代表者から被害の状況とOB会の取り組みの報告がありました。大地震と津波で被災された方々や原発事故で自宅を離れざるを得なかった人々の悔しさや「心の痛み」に接しながら活動してきた生々しい報告は、会議に参加された私達に改めて被災地の深刻さを突き付ける発言でした。

OBは「原発反対」の声を

会議では、地震と津波で家族を亡くしたり、住む家を失ったOB会員が少なからずおり、こうしたOB会員・家族らに支援していくために、現在取り組んでいる「義援金活動」を成功させ、今後は私たち高齢なOB会員でも可能なボランティア活動にも積極的に取り組んでいくことを決定しました。



緊急地本OB会代表者会議

また、福島原発事故に対しては、新潟・柏崎などの原発建設当時から安全に疑義を持ち、反対運動に参加してきたOB会員が多いことから、「今こそ、OBが立ち上がる

べきだ」との声も上がり、これから各地方においても「直ちに全ての原発を止める」闘いを追求していくことも意思統一しました。

引き続き「支援」の取り組みを

本部OB会はこの日の「緊急地本OB会代表者会議」の決定を受けて、中央本部との連携を強化しながら「被災者支援」と「原発反対」の取り組みを積極的に推し進めていくことになりました。

なお、「義援金」の取り組みは、5月31日をもって一応集約しますが、6月からは「被災者を支援する活動」の資金カンパの取り組みとして引き続き会員の皆さんにご協力を訴えていきますので、これからも宜しくお願い致します。

『我らの声』第12号発行!

「元気なOB」の声を一読しよう!

- * 全国から松崎さんを悼む声!
- * 届け! 組合員を激励するOBの声!
- * 楽しみながら第2の人生を過ごすOBの声!
- * 「我らの声」こそ、生涯労働者の声!

- 例年より投稿者が多く、170ページ。
- 頒布価格: 400円です。
- 購読申込みは、各地本OB会へ!

お詫び

「OB会ニュース」の先月号(No.157)裏面のエルター職場紹介の欄で執筆者の名前を間違えて記載しました。正しくは、川村順一さんです。深く反省・お詫びし、訂正させて頂きます。

OB声の広場

立ちあがれ日本

◇ 3月11日の東日本大震災は海岸・市町村の全土に大きな爪跡を残しました。又、原子力発電所の放射線物質による汚染は、日本国中にその影響を与えました。

◇ 被災された人々は肉親の安否を気遣い、今後の生活に不安を募らせ、心に傷を残しました。私達はその人々の苦勞を少しでも軽くするため支援・協力を惜しみません。農林漁業、商工業、衣食住の被害は、かつての災害よりはるかに大きく、今後の対策次第では生活様式がどうなるのか大問題となりそうです。

◇ 被災された人々も救援する人々もその苦勞は、共に計り知れません。募金による救済、労働による救援、精神面のケア、医療救援等、どれも被災者にとっては大切な問題です。

◇ 特に原発問題は大変な状況です。今避難されている人達の生活は、この先どう変化するのか皆自分から不安視されています。「いつ故郷に戻れるのか」「戻っても放射能汚染は大丈夫なのか」不安は募るばかりで、生活の将来像が描けません。

◇ 私達は被災された人々のために、これからずっと支援・協力の気持をもち続けていかなければなりません。被災者の救済は、人々の心がつながり、人と人との一体感が何よりも大切です。

◇ それについても政治家達は何を考え、この難事を乗り切ろうとしているのか。野党だの、与党だの、首相や大臣の言動に対して揚足取り・批判に終始し、被災地のために結束して何かをしようとする態度が全く見えない。今や、悪口や足の引張り合いをしているセイジは要らないのです。

◇ 被災地の苦境を見れば、皆で協力・結束して、この難局を解決する政策を出し合っただけで済むべきだと考えるのは私だけでしょうか。先ず政治家は現地に赴いて被災者を激励し、被災地から学ぶことから始めたらどうでしょうか。

◇ 私達高齢者も、できる限りの協力は惜しみません。今の日本は「一体感」が必要不可欠ではないでしょうか。私はそう思っています。皆で考え、皆で協力して元気に立ち上がれる日本を創り上げようではありませんか。

秋田地本OB会 (Y・M)

熊谷・高崎・前橋 三支部OB会が合同で結成総会

高崎地本OB会 副会長 関谷則之

高崎地本OB会の念願であった支部OB会の結成総会が3支部同時に開催されました。この支部結成を皮切りに地本と分会の間のパイプ役を果たし、OB会がより地域に密着した形でのキメ細かな活動が可能になり、強力な体制になることを目的に出発しました。

問われた復興支援

来賓には、本部OB会大熊会長、地本山本副委員長を迎え、激励の挨拶を受けました。支部OB会創出の意義と東日本大震災で被災地に激励・支援に入っ、肌で感じ取ったことがリアルに報告されました。

結成までの議論経過として、①本部OB会からの支部結成の必要性の提起を受け、昨年の地本OB会総会で結成に向けた議論が開始されたこと、②会員数が800名を超えるまでに増え、地本のみの運営では運動の発展には限界があり、より緻密な活動が求められていること、③運転職場主導の片寄った体制克服のために営業・工務の仲間の結集を図ること、などを課題しながら準備を進め、この総会がその具体的な成果を確認する場となりました。

山本副委員長には結成までの指導を頂き、同時に陸前高田市の状況が報告されました。復興支援のためにいま何をなすべきかが問われました。参加者全員で受け止め、その後、役員承認と議論の過程を確認しました。

3支部の初代会長より抱負と熱く力強い決意が語られ、満場の拍手で確認されました。

結成を飛ばさず決意

5月14日(土)、地本会議室において、役員・代表者45名の出席を得て、田中副会長の司会の下、合同結成総会が開催されました。三支部合同の開催は有効的であり、前へ進むための意思統一を図る絶好の場になりました。

冒頭、飯島会長は挨拶の中で準備会役員の労苦をねぎらい、「この感激を出発点にさらに飛ばさず決意を述べました。何者かに虐殺された故、松下委員長・志半ばにして病魔に侵された故・桜沢副委員長の墓前に報告すること」を力強く述べられました。

第2部の懇親会では、和気あいあいの中にも苦楽を共にした仲間達、程よく回るアルコールに弁古さやかに、時の過ぎるほどに熱く語る姿に、OB会の道筋が見えました。「1980年12月8日、覚えていますが山本副委員長の問いかけに皆忘れていました。「柏崎原発建設反対闘争を現地で闘った日ですよ、ああ、あの日だったのか」と原発反対。そのことを胸に新たな闘いが始まったのです。浦和電車区事件上告審勝利！原発反対！堀口副会長の力強い締め言葉で総会は成功裡に終了しました。

- なお結成三支部OB会の会長は次の通り。
- 熊谷支部 原武久 (籠原運輸区)
- 高崎支部 花田実 (高崎運輸区)
- 前橋支部 新井勇 (高崎車両C)

立川車掌区分会OB会結成されました！

本年4月9日、立川・旧三鷹車掌区のOB20名が参加して、JR東労組立川車掌区分会OB会の結成総会が開催されました。

立川車掌区分会OB会結成総会



この日の結成に向けて昨年4月、立川車掌区と旧三鷹車掌区のOB22名が参加して「立川・三鷹車掌区OBの集い」を開催し、当時を懐かしみ、弾む会話を交わしました。その中で「OB会を結成しよう」という声が上がリ、1年がかりで分会OB会の結成準備を進めてきました。

結成総会の準備が整った3月にあの大震災が発生し、被災地の人達を気遣う観点から開催すべきか否か悩んできましたが、昨年来のOB会結成の機運の盛り上がりと一年間の準備の実績を大事にすべきとして、結成総会開催に踏み切りました。

結成総会では、地本OB会の指導のもとで分会の活動を創りながら、地本・支部のOB会活動にも積極的に参加していくことを確認しました。また本部・地本OB会へ加入していない人も多くいるので、加入促進を重要課題として取り組み、組織確立を目指していくこととしました。

総会終了後の懇親会では、OB会を結成できた喜びで和気あいあいの交流ができました。

(立川車掌区分会 OB会長・芦澤光弘)

- 会長 芦澤光弘 (三鷹車掌区) 副会長 吉川庄蔵 (立川車掌区)
- 事務長 須田 勝 (三鷹車掌区)

豊漁の潮干狩り 楽しい一日でした

去る5月19日、晴天に恵まれた千葉の木更津海岸、千葉地本OB会が主催した恒例の潮干狩りが行われました。



千葉地本OB会「潮干狩り」参加者

今年は3月11日に起きた東日本大震災で被災された方々の心情を思い、行事の中止も考えましたが、幹事会の総意で開催することを決めました。震災の影響で社会全体に自粛ムードの漂う中で、今年は家族を含め30余名に参加して頂きました。

本部OB会から大熊会長に参加いただいたのを始め、東京・横浜・高崎地本の各OB会からも遠い中をご参加いただき、潮干狩りと交流会を盛りたてて頂きました。

昨年は不漁だったので、「今年も不漁だったら、どうしよう」と心配しましたが、今年はアサリの粒も大きく、参加者の中には指定キロ数を大幅に超えた方もいましたし、参加された皆さんにも大いに満足頂き、楽しんで頂いたものと喜んでます。潮干狩りを終えた後は、休憩所でささやかではありましたが、酒宴を設けさせて頂き、会員相互間の親睦を深めることが出来ました。

千葉地本OB会は、東日本大震災の被災者支援に向けた取り組みと、福島原発のような人災を二度と起こさないためにも脱原発に向けた闘いに積極的に参加していきます。

東日本大震災に遭われた被災地の復興と被災者の皆様の明るい笑顔が、一日も早く戻りますように、心からお祈りします。(千葉地本OB会長・田代多聞)

私のエルダー職場 紹介します

秋田地本・秋田駅警務所公会 OB 風間康則

エルダー社員二年目を迎えて

◇ 私は今から六年前の平成16年4月に現在の職場に出向し、昨年2月に退職してエルダーになりました。この機に鉄道人生を思い起してみました。

◇ 面接試験で「運輸大臣の名前は？」と問われ、「知りません」と私は答えた。試験官は「運輸大臣の名前も知らないで、これでは合格できない」とも観念した。

よく国鉄の試験を受ける気になったものだと話され、私は驚愕された思いだった。その後もそんなことは聞いていない！等、受験者の私の方が「そんなに怒る事はないの」と内心思いながら、一方で、これでは合格できないとも観念した。

◇ 試験官から「試験終了」を告げられ、退出の場面「失礼します」と振り返り、挨拶をした。その自分の姿を最後まで観察していた試験官の顔を今でも思い出す。鉄道の人生の一步とも言える高三の思い出あれから約四五年。

◇ 最初は希望の秋田機関区に配属されたものの、一ヶ月余りで山形駅構内作業掛を命ぜられ、貨物列車全盛時代、貨車の入換作業等に従事して七年余り。三叉職場と称され、「危険・汚い・きつい」の代名詞。現在、担当する改札業務は当時の憧れであった。

◇ その後、車掌・指令・運転系統の管理職等も経験させて頂いた。この間、数々の出会いと修練があった。振り返ってみると不思議なもので、辛い事は全て忘れてしまい、楽しいことばかり思い出す。

◇ 就職当初の挫折感等があるがゆえに、今こうして希望が叶い、接遇の要となる業務を担い、やりがいを感じている。

◇ 蛇足として、業務中は笑顔で挨拶することに心掛け、あの試験官の求めるJR社員の間違った理屈を求めず毎日である。

